Your future is made by reding books ９号

2023年３月20日

新年度の新学期が始まり３か月が経過しました。去年末、にわかに次年度(2023年度)はCOVID 前の学校スケジュールに戻すため９月初旬で１年を終わらせるという話が挙がっていたのですが、新学期開始時には12月末までとなっていたので安心してたところ、２月中旬にガーナ政府が正式に今年度の Academic　Calendar を発表し、今年度は９月で終了そして中学卒業認定試験を９月に実地するというものでした。図書館の図書数が増えてきて自習時間に頻繁に図書館を利用する子どもの姿を見ているだけに今年度の一年の短かさを悔やんでしまいます。自習時間に図書館を利用する子どもは、お目当ての本があって来る子ども、まだ読んでいない本で興味が持てる内容の物を見つけようとする子どもと様々ですが、教室から駆け足で来て図書館に入る時の明るい声から皆この場所に来るのが楽しみでならないという事が伝わってくるのです。今現在、この図書館は図書館利用を担任が指導した６年生から中学３年生までが自習時間に訪れています。幼稚園児クラスから５年生まで絵本の読み聞かせの巡回を行なっているのですが、子どもに読んであげたい絵本がふえたことで読み聞かせの幅も増えてきました。（※ガーナ挨拶 No56 も併せてご覧いただけますと幸いです。）１学期に１回はこの読み聞かせ巡回授業を行ないたく、今学期は『三匹のやぎのがらがらどん』の読み聞かせを実地して、関連工作で登場するトロールを作りました。名作『ぐりとぐら』を世に出した編集者松井直さん（去年11月死去）は『絵本の与え方: 福音館書店』の中で読み聞かせに関してとても為になることを語っています。小学校入学前までの子どもに対しての読み聞かせに関しての物ですが、ここガーナにおいても児童期にも実践することで情操教育に繋がっているのだなとも思います。「絵本はゆたかな“ことば”の宝庫」「繰り返しが大切な昔話絵本」とその書の中で語られていました。まさにその通りだなと実感しています。子どもが覚えた日本語「うんとこしょ、どっこいしょ。」「がらがらどん」がその証しだと思います。「絵本は大人が子どもに読んであげる本」松井さんの言葉をこれからも実践していきたいと思います。

図書館建設サポーター　一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター　フェリシモ基金事務局様　　矢東タイヤ様

KAWASHO FOODS (GULF)FZE 様